

熊本大学大学院生命科学研究部の概要と技術職員の業務紹介

中川 雄伸、園田 佳世子、大津 由紀、熊谷 芳宏、木庭 義和、工藤 信次

熊本大学大学院生命科学研究部

1. 背景

大学院重点化に伴う改組により、熊本大学医学部および薬学部の各講座は医学・薬学・保健学3分野融合の研究特化型医薬系教員組織である熊本大学大学院生命科学研究部として再編された。われわれ大学院生命科学研究部所属の技術職員の業務は、研究支援、教育支援、管理、社会貢献など多岐にわたる。研究・教育の分野に於ける技術の進歩は著しく、更なる高度化・多様化への対応が技術職員に求められ、その役割はますます重要になってきている。

今回、本研究会を開催する熊本大学の技術職員として、大学院生命科学研究部の概要と技術職員（基礎医学系）の業務について紹介することによって、学内外の技術者との情報交換・技術交流の機会を得て、今後のスキルアップに役立てたい。

2. 大学院生命科学研究部の概要

(1) 沿革の概略（医学系）

宝暦 6年（1756年） 肥後藩主 細川重賢が医学寮を創設して再春館（熊本での医育機関の始まり）と称した。

明治 4年（1871年） 廃藩置県により医学所兼病院に改称。

大正11年（1922年） 県立熊本医科大学となる。

昭和24年（1949年） 熊本医科大学、第五高等学校、熊本工業専門学校、熊本薬学専門学校、熊本師範学校、熊本青年師範学校が昭和24年5月に公布された国立学校設置法によって廃止され、それらを基幹として医学部、法文学部、理学部、工学部、薬学部、教育学部の6学部からなる熊本大学が発足し、熊本医科大学は熊本大学医学部となる。

平成15年（2003年） 大学院医学研究科と薬学研究科の統合により熊本大学大学院医学薬学研究部を設置。

平成22年（2010年） 医学・薬学・保健学3分野融合の熊本大学大学院生命科学研究部へ改組。

(2) 大学院生命科学研究部の紹介

現在、熊本大学は黒髪地区（文学部・教育学部・法学部・理学部・工学部）、本荘・九品寺地区（医学部）、大江地区（薬学部）の3つのキャンパスからなる。

昭和20年（1945年）7月1日の戦災により本荘地区にあった熊本医科大学は全棟焼失し、同年12月、熊本城二の丸の旧軍用施設予備士官学校跡に移転となり、昭和34年（1959年）に本荘・九品寺地区に移転帰還した（写真1）。平成11年（1999年）3月には現在の本荘・九品寺北地区に移転し（写真2）、熊本大学の本部である黒髪地区から南西へ2-3km、繁華街まで徒歩で約10分の熊本市の中心部に位置する。

大学院生命科学研究部は、医学・薬学・保健学が融合した3部門（総合医薬科学、先端生命医療科学、環境社会医学）

>13講座（生体機能病態学講座、生体情報分析医学講座、環境生命科学講座ほか）>79研究分野（形態構築学分野、



写真1 医学部 旧基礎研究棟



写真2 大学院生命科学研究部 基礎医学研究棟

生体微細構築学分野、法医学分野、機能病理学分野、細胞病理学分野ほか) からなる研究特化型の医薬系教員組織である。

「総合医薬科学部門」では医学・薬学・保健学の基盤的な学問体系の深化を目指した研究を、「先端生命医療科学部門」では移植医療やゲノム創薬に加え医療技術科学などの先端的研究を、「環境社会医学部門」では、“医学・薬学と社会”、“疾病と環境の関わり”について生命倫理および健康と社会に関する先導的研究を推進する。

3. 大学院生命科学研究部の技術職員（基礎医学系）の紹介と業務内容

(1) 技術職員の紹介

技術職員（基礎医学系）は、解剖・組織学、法医学、病理学の各分野に配属されている教室系の技術職員であり、技術部組織は存在しない。

人数：6名

解剖・組織学（総合医薬科学部門 生体機能病態学講座 形態構築学分野、生体微細構築学分野）：3名

法医学（環境社会医学部門 環境生命科学講座 法医学分野）：1名

病理学（総合医薬科学部門 生体情報分析医学講座 機能病理学分野、生体機能病態学講座 細胞病理学分野）：2名

共通点：解剖（正常・法医・病理）関連の業務。

(2) 業務内容

解剖・組織学：教育支援（医学科講義・実習、基礎演習）、研究支援、献体業務、組織標本作製、管理（実習室・実験機器・薬品・標本・実験動物・安全衛生・個人情報など）、研究室事務ほか。

法医学：検査業務、研究支援、管理（解剖室・標本・実験機器・薬品・安全衛生・個人情報など）、教育支援、研究室事務ほか。

病理学：剖検介助、組織標本作製、研究支援、管理（解剖室・実験機器・薬品・安全衛生・個人情報など）、教育支援（医学科実習・基礎演習、保健学科臨地実習）、社会貢献（県臨床検査技師会での病理標本コントロールサーベイや細胞検査士の育成）ほか。

(3) 資格

臨床検査技師国家資格6名、衛生管理者（第一種）3名、危険物取扱者（甲種）2名、毒物劇物取扱者（一般）2名、解剖技術士（一級）1名、細胞検査士（国内・国際）2名。

(4) 過去の外部研究費獲得状況

科研費（代表者）：若手研究（B）1件、奨励研究（B）4件、奨励研究1件。

科研費（分担者）：基盤研究（C）1件。

4. まとめ・考察

(1) 熊本大学大学院生命科学研究部は、医学・薬学・保健学が融合した3部門>13講座>79研究分野からなる研究特化型医薬系教員組織である。大学院生命科学研究部には技術部組織は存在せず、技術職員（基礎医学系）は解剖・組織学、法医学、病理学の各分野に所属している教室系技術職員6名である。

(2) 技術職員は、技術の進歩・高度化に備えて、日頃から技術の検定とデータの蓄積・整理を行い、いつでも的確な指導・助言ができるように最新の資料を作成しておくことが重要であると考えられる。論文、学会発表、学位取得などの業績的な側面に目を奪われがちであるが、技術職員に最も求められていることは、研究支援、教育支援、管理、社会貢献などの多様な業務遂行能力を向上させ、かつ研究・教育の基礎となる専門技術を継承していくために自己研鑽を怠らないことではないかと思われる。

5. 参考資料

(1) 2010 熊本大学概要、編集発行：国立大学法人 熊本大学、平成22年7月発行

(2) 熊本大学大学院生命科学研究部・教育部 ホームページ